

経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県小鹿野町 国民健康保険町立小鹿野中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
10,893	8,475	第2種該当	-	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

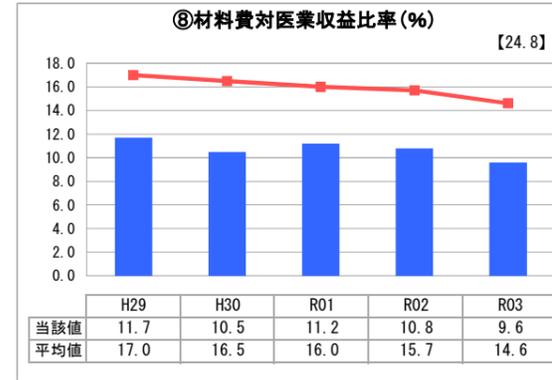
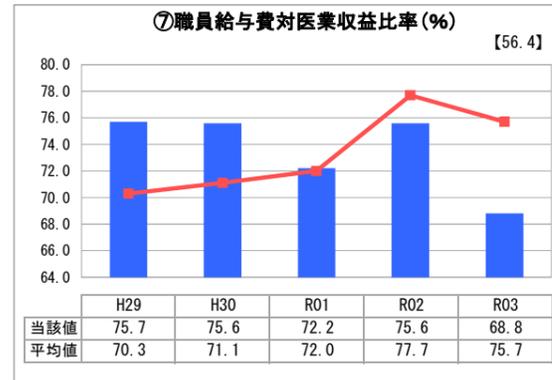
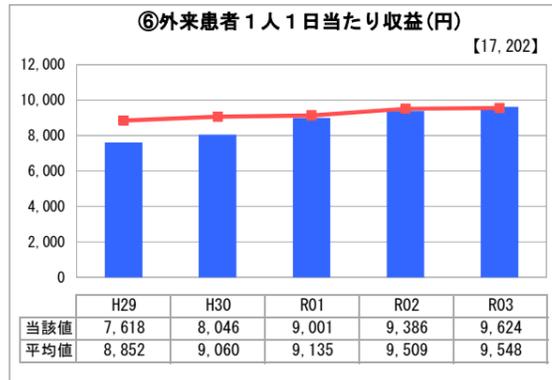
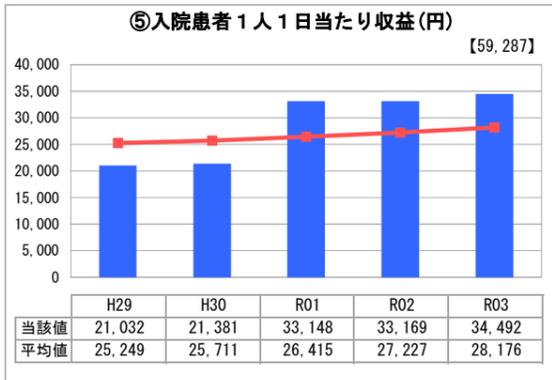
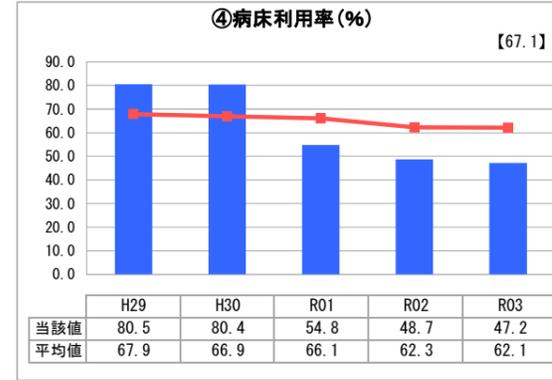
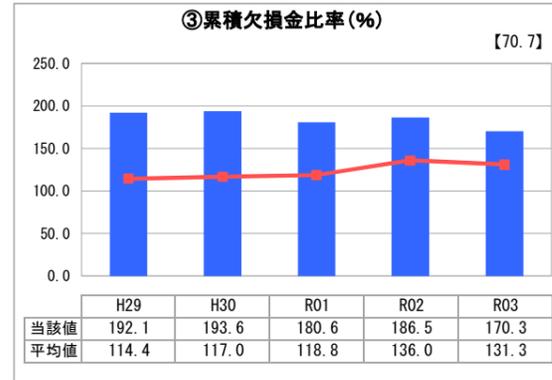
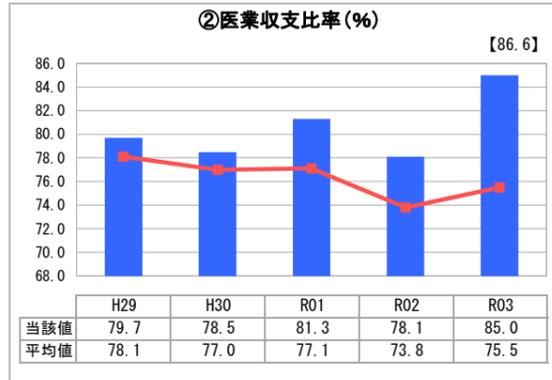
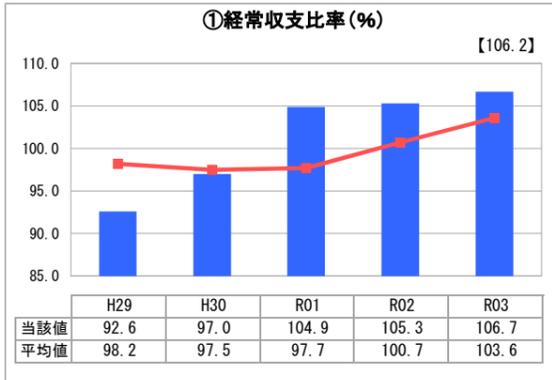
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
95	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	95
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
60	-	60

グラフ凡例

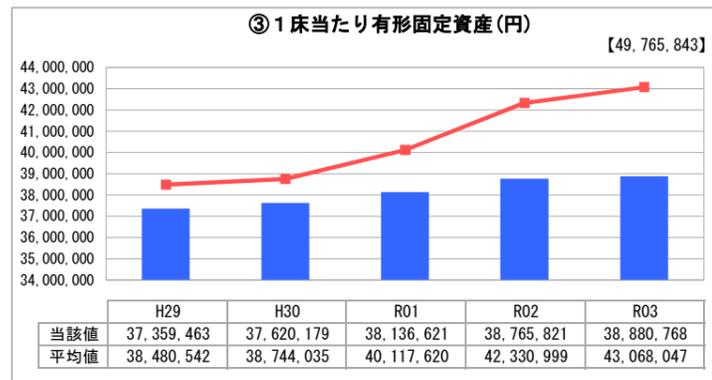
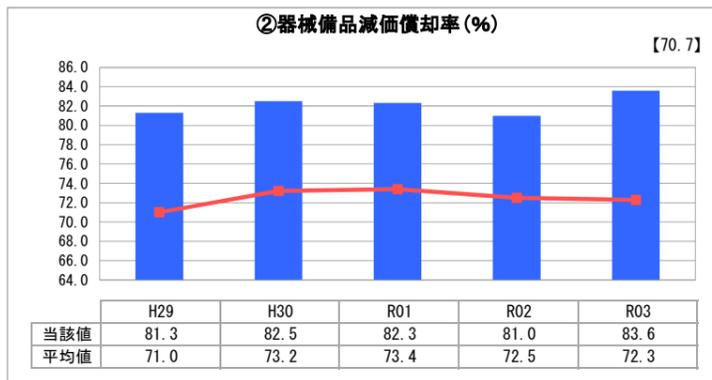
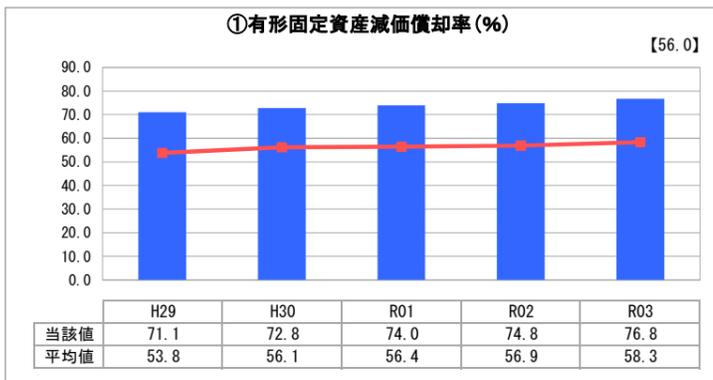
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

平成31年4月以降、急性期病床45床、回復期病床30床（地域包括ケア病床）で運営している。秩父郡市全域で人口減少と高齢化が著しいが、西秩父地域では唯一の病院であり、地域医療を提供する役割は大きい。
通常の診療に加えて予防からリハビリまで切れ目のない医療を提供するため、訪問診療、通所リハビリ・訪問リハビリサービスを積極的に行っている。また、緩和ケアの対応も行っており、地域に親しまれる病院であり続けるため、より切れ目のない医療を提供するため、訪問看護事業を検討している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率→外来収益は、新型コロナウイルス感染拡大による発熱外来対応により増収、入院収益は、コロナ治療後の患者を受け入れ増収となった。ワクチン接種対応もあり医業収益全体で前年度比約45,000千円増収、一般会計からの繰入金も前年度比約92,000千円増となったことから、総収益は前年度比約43,000千円増となった。費用全体では、給与費をはじめ材料費、経費に減少し、前年度比約57,000千円減となったことから、経常収支比率は前年度比1.4%増となっている。②医業収支比率→医業収益が前年度比約45,000千円増収、医業費用は前年度比約50,000千円増となったことから、医業収支比率は、6.9%増となった。③累積欠損金比率→14年度病院に増収増収を実施し、多額の減価償却費を計上しており、人口減少、新型コロナウイルス感染拡大による患者数減により収益も伸び悩み厳しい状況が続いている。経常収支は前年度比で約15,000千円改善し、16.2%改善している。④病床利用率→病院全体で許可病床は95床であるが、看護スタッフが不足する中で転換であるため、一般病床、回復期病床ともに30床での運用を行っており利用率も47.2%となっている。⑤入院患者一人一日あたり収益→コロナ治療後の入院患者受け入れにより加算が付きしたことにより前年度比で増収となっている。⑥外来患者一人一日あたり収益→主に発熱外来の対応により加算が付きしたことにより単価が増。⑦職員給与と医業収益比率→給与費は職員減により前年度比で約43,000千円減、医業収益が前年度比で約45,000千円増となったことから前年度比で給与費の医業収益比率が6.8%減となった。⑧材料費→医業収益が前年度比で約45,000千円増となっているが、入院患者は減少した。結果的に材料費が減になり前年度比で1.2%減となっている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②機械備品原価償却率類似団体と比較し固定資産減価償却率が高いことから老朽化が進んでいると思われる。病院本館は昭和51年建設し40年経過しており、建物の安心・安全を確保するため、平成29年度に耐震工事を実施し、雨漏り対応工事を令和2年度に実施した。機械備品についても類似団体と比較して機械備品減価償却率が高くなっており、医療機器に関しては、経営も厳しく1年でも長く有効利用するために、保守点検及び精度管理を定期的に行い、耐用年数より長く利用している機器が多い。保守点検者の情報により精度が確保されない場合は、機器の更新を行なっている。

全体総括

西秩父唯一の病院であるが、人口減少、高齢化が進んでいる状況であり、医療・経営面のどちらも厳しさが増している。また施設の老朽化も進んでおり、これらの修繕には多額の費用がかかり、小鹿野町単独での運営も厳しい現状である。当院は、経営改善に向けて平成31年4月に療養病床を一般病床の回復期病床（地域包括ケア病床）に転換した。収益は改善傾向であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による患者数減少もあり、大幅な改善には至っていない。今後も感染の拡大状況によっては経営面への影響は続くと思われる。近い将来、訪問看護事業の取入れを検討しており、新たな収益拡大の切り札としたい。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和3年度決算）

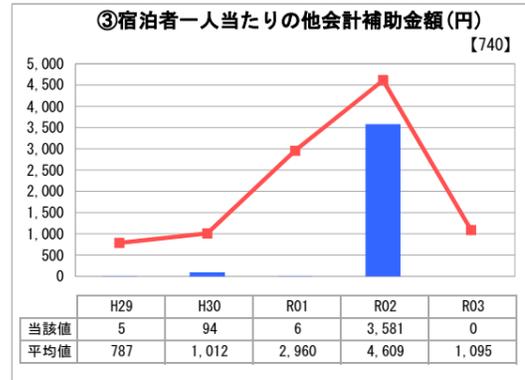
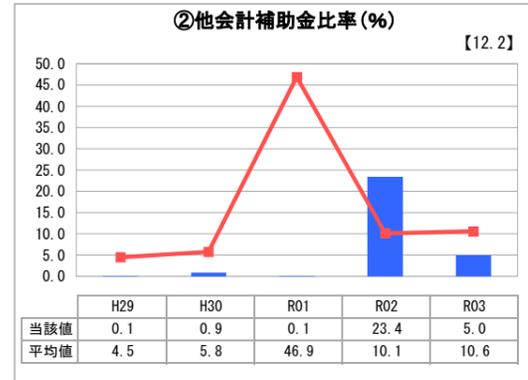
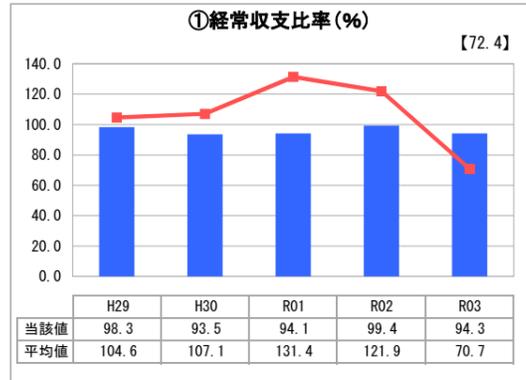
埼玉県小鹿野町 国民宿舎 両神荘

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A 2 B 2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	建物延面積 (㎡)	宿泊定員数 (人)	
0.0	86.3	4,302	168	

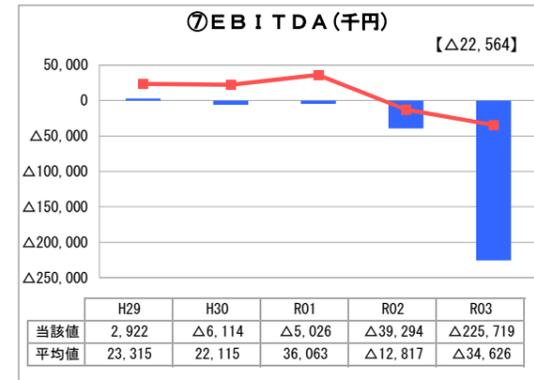
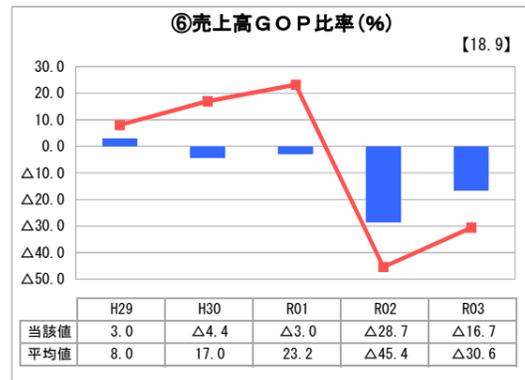
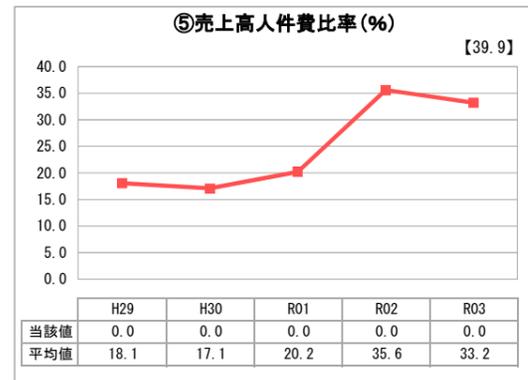
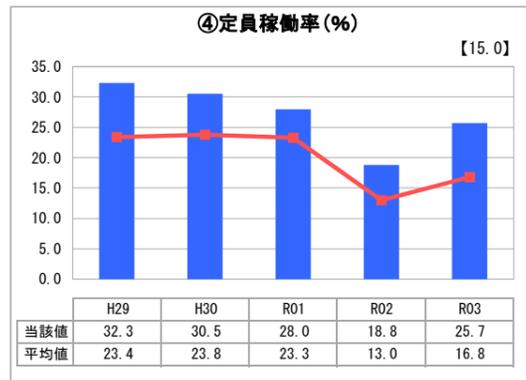
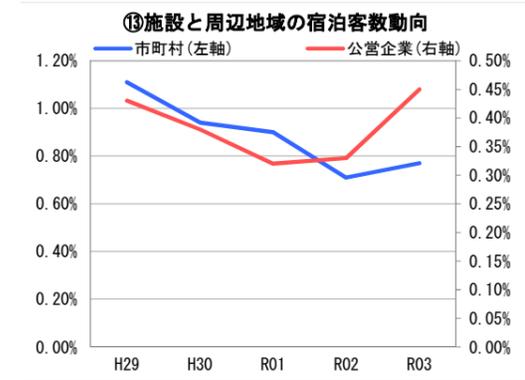
客単価 (円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合 (%)
9,561	無	40.0
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率 (%)	Wi-Fi設置
無	85.7	有

グラフ凡例	
■	当該施設値 (当該値)
—	類似施設平均値 (平均値)
【	令和3年度全国平均

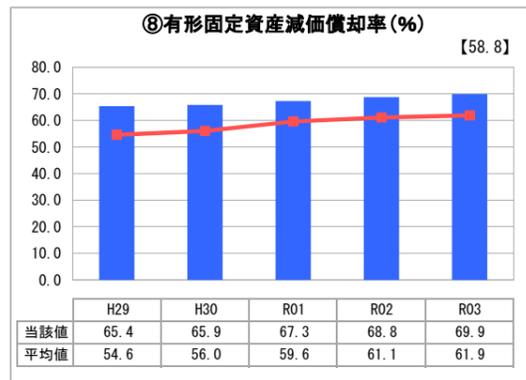
1. 収益等の状況



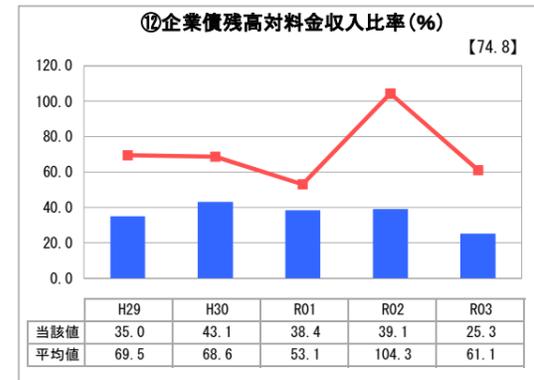
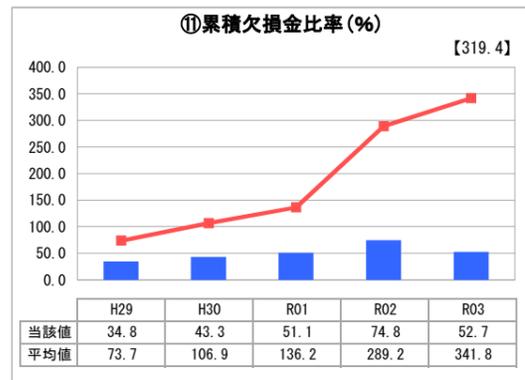
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑨ 施設の資産価値 (千円)	458,042
⑩ 設備投資見込額 (千円)	0



分析欄

1. 収益等の状況について

① 経営収支比率は、コロナ禍による緊急事態宣言等の発出や外出の自粛要請等により大きな影響を受けたものの感染防止等対策しながら集客に努めました。
 ② ③ 他会計補助金比率、宿泊者一人当たりの他会計補助金額は、前年に比べコロナ禍でも集客出来たので減少しました。
 ④ 定員稼働率は、コロナ禍でしたが若干上回って経営改善が図られている。
 ⑤ 売上高人件費率は、集客が図られて収益が上がったので押さえられてきた。
 ⑥ 売上高GOP比率は、営業総利益増加により回復傾向になっている。
 ⑦ EBITDAとは減価償却前営業利益ですが、光熱費、燃料費、食材費等の高騰により増加収益確保に努めます。

2. 資産等の状況について

⑧ 有形固定資産減価償却率は、年々施設等古くなり設備の当施設開業から40年以上が経過し今後も施設の老朽化が進むことから、計画的な施設の整備、更新に努めます。
 ⑨ 累積欠損金比率は、赤字が継続しているため上昇傾向にありますので、経営改善に努め赤字額縮小に努めます。
 ⑩ 企業債残高対料金収入比率は、光熱費等費用増加もありますが集客の改善により抑えられてきています。なお一層の集客に努めます。

3. 利用の状況について

⑬ 宿泊利用の状況については、コロナ禍による緊急事態宣言等の発出や外出の自粛要請等により大きな影響を受けましたが、一部に回復の動きがみられ、業界のガイドラインに沿った感染防止対策を実施し、両神荘ホームページや宿泊予約サイトで宿泊プランの販売を行い利用促進をし回復傾向になってきています。経営マネジメント面では、現在ネット社会になり予約も予約サイト経由の利用が増えてきている、手数料も高額になるのでホームページ経由で予約を増やしたい、現在のホームページの中身を一新しホームページからの予約を取り込みたい。

全体総括

昭和50年に公営国民宿舎としてオープンし現在宿泊者数年間15,000~20,000人前後で推移しています。本館開業から46年が経過し、施設の老朽化が進む中改修費用も増加傾向にあり厳しい経営状況の中で、令和2年度からのコロナ禍の影響で利用客数、営業収益も低迷しました。厳しい経営環境が続く中ではありますが、より快適で安全に利用できる町営国民宿舎として、健全な事業運営ができるよう経営改善に努めます。近年増加してきているインターネット予約に対応するため、両神荘及び周辺観光施設等の写真を撮影し、ホームページやチラシなどの画像の更新し、今年度も新型コロナウイルス感染症および変異株による影響を受けましたが、館内での感染防止対策を行いながら営業実施し経営を改善し営業に努めます。

経営比較分析表（令和3年度決算）

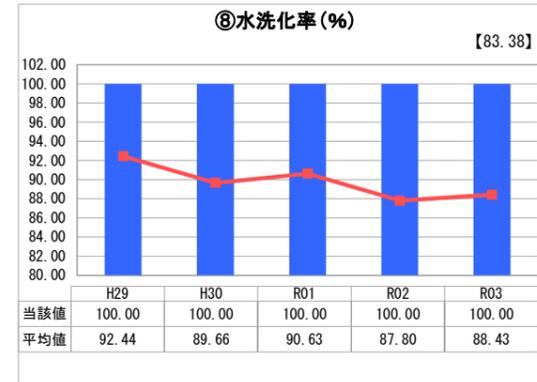
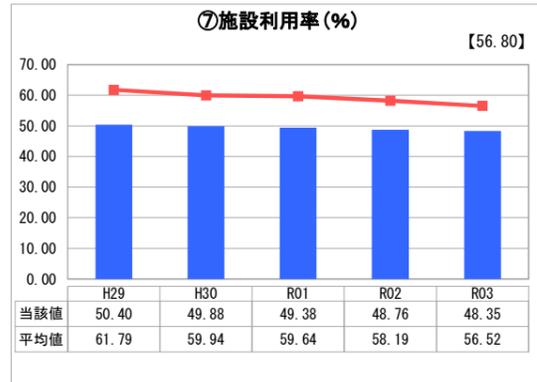
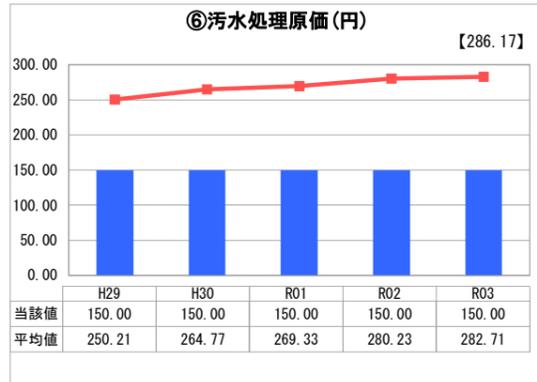
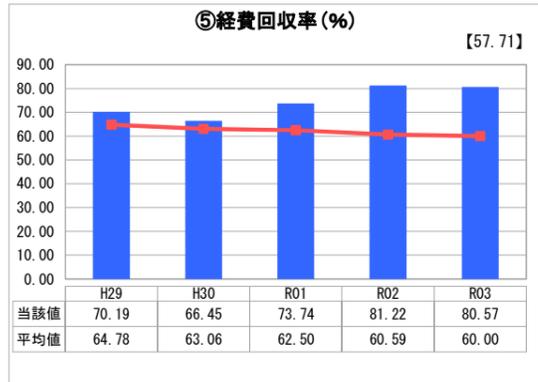
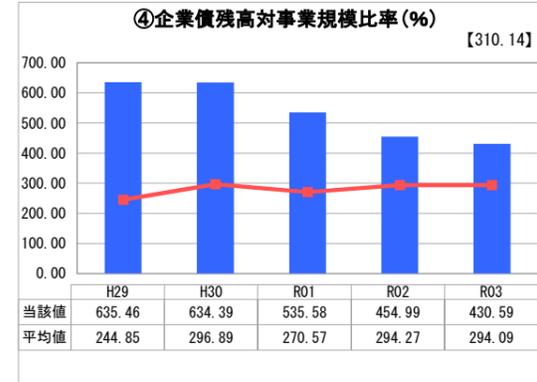
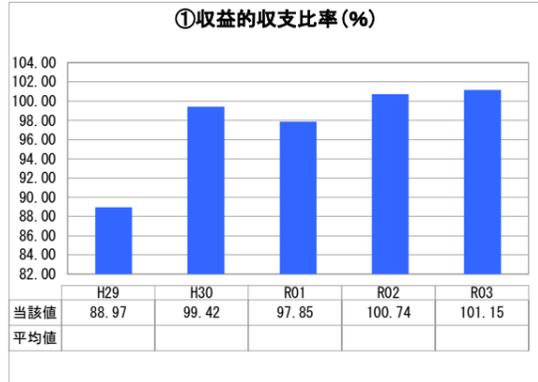
埼玉県 小鹿野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	32.75	100.00	2,090

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,893	171.26	63.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,527	1,712.60	2.06

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
経営の健全性についてはR2年度より改善し収支は黒字(100%以上)となっている。これは合併処理浄化槽の基数が増え、使用料における清掃料の収入が増加したことが主な要因である。今後も使用料を適切に収納しさらなる経営改善に取り組む。

④企業債残高対事業規模比率
類似団体平均値と比較して高い水準となっているが、これは当町がこれまでに合併処理浄化槽の設置を積極的に推進してきたためである。合併処理浄化槽の設置基数も一定の基数に達し、近年は年間の設置基数が減少傾向にあるため、今後の企業債残高は類似団体平均水準に近づくと考えられる。

⑤経費回収率
汚水処理に係る費用を使用料のみで賄えてはいない、これは社会情勢等から、消費税の増税分以外は使用料金を値上げしていないことが要因の一つと考えられる。今後については、汚水処理費の増加が予想されるため、適正な使用料水準の確保及び汚水処理費の削減が必要である。

⑥汚水処理原価
毎年150円台をキープしており、安定した汚水処理コストを維持している。また、類似団体平均値と比較しても、比較的安価な汚水処理コストを実現している。これは、浄化槽保守点検及び清掃作業委託料について、消費税の増税分以外は値上げしていないことが要因の一つと考えられる。なお、後は社会情勢等から委託料の値上も考慮されるが、汚水処理単価の上昇をなるべく抑えるように努める。

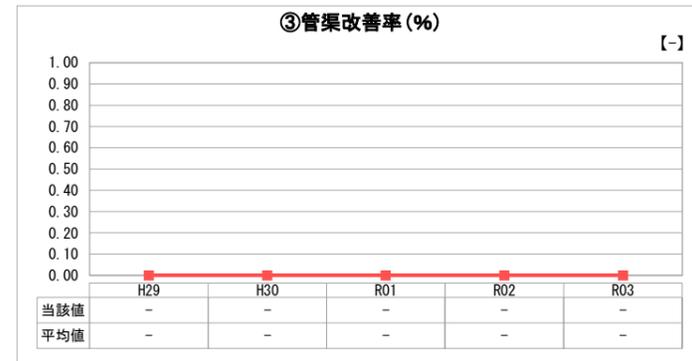
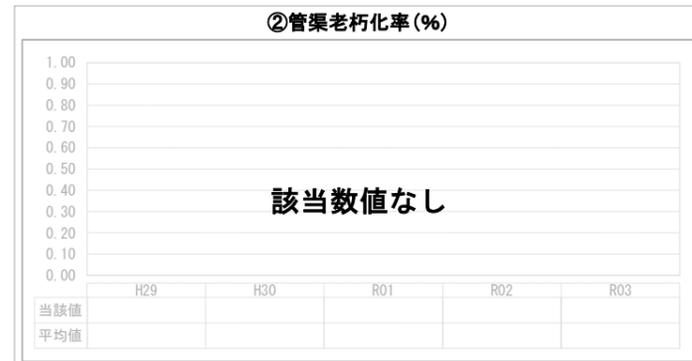
⑦施設利用率
類似団体平均値と比較して低い水準となっているが、当町では世帯人員(使用人員)により設置する浄化槽の大きさを決定しており、6名以上の場合は10人槽を設置するなど汚水を確実に処理できるように整備しているためと考えられる。

⑧水洗化率
浄化槽により汚水処理をしており、設置後すぐに使用開始するため、水洗化率は100%である。

2. 老朽化の状況について

当町では全域を市町村設置型浄化槽で整備をしているため、管渠の設備はありません。
市町村設置型浄化槽の供用開始から22年が経過しますが、浄化槽の耐用年数はおおむね30年となりますので、老朽化対策については今後検討していく必要があると考えます。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理費を浄化槽使用料で賄えていないため、現状、繰入金を受けることにより、不足額を補填している状況にあります。
今後、汚水処理費の増加が予想されることから、収支が赤字である状況を改善するため、料金設定の見直しによる、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に向けた取組が必要であると考えます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。